

【小中連携・合同授業】

中学校第1学年選択・小学校第5学年 保健体育科学習指導案

指導者 T1 中学校教師

T2 小学校教師

1 単元 「バスケットボール」

2 指導観

- 国際化、情報化、高齢化、価値観の多様化が進み、生徒を取り巻く環境は激しく変化している。こうした中で、基礎体力の低下や、他人とのコミュニケーション能力の低下などが大きな問題となっている。今後、このような社会の中で、基礎体力を向上させると同時に、生徒一人一人が集団の一員として主体的に生活できる能力を育成する必要がある。

本単元で取り扱うバスケットボールは、集団対集団、あるいは個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、戦術を立てて練習する楽しさや、得点したり守ったりする楽しさといった、球技の本質的な楽しさを味わうことができる種目である。また、走・跳・投などの動作をスピーディーにかつ力強く行いながら、攻防を展開するところにも面白さがある。このような特性から、基礎体力を向上させると同時に、チーム内で自分の役割を持ち、コミュニケーションを取り合って練習やゲームで協力し合い、責任を果たそうとする態度を養うことは大変意義深い。

- 本選択授業の生徒は、全体的に明るく活発で、球技に対する関心・意欲が高い。また、学習規律や集団行動に対する意識も高く、積極的に教え合ったり、声をかけ合ったりして、協力することができる。しかしながら、腕立て伏せや腹筋、背筋などの基本的な筋力が不十分であり、女子だけでなく男子生徒の中にも投運動の苦手な生徒が多い現状がある。そのため、パスやシュートなどの技能が特に低い傾向にある。さらに、ダブルドリブルやトラベリングなどの基本的なバスケットボールのルールについても十分に理解できていない生徒も多い。

- 本単元の指導にあたっては、個人的技能の習得を通して筋力や巧緻性などの体力を向上させ、簡単なゲームを通して集団的技能の向上を図り、互いに協力して練習方法を教え合ったり、作戦を話し合わせたりすることで、バスケットボールの楽しさを味わわせたい。

そのためにはまず、オリエンテーションを行い、バスケットボールの特性やルールの基本を学習させ、グループ編成を行う。その際、グループ編成については、技能の高い生徒が一つのグループに集まらないようにする。次に、個人的技能を習得させるための練習を行わせる。ここでは、様々な鬼ごっこを通して、バスケットボール的なフットワークを身につけさせる。また、ボールを使った補強運動を行うことで体力の向上を図らせる。そして、パスやシュート、ドリブルの練習についてはグループごとに取り組ませることで、互いに協力させ、仲間を尊重する態度を身につけさせる。さらに、集団的技能を習得させるための練習を行わせる。ここでは、鬼ごっこの要素を含んだ簡単なパスゲームを行わせることで、意欲的に取り組ませる。また、3対2や3対3といった少人数での攻防練習を行わせることで、一人あたりの接球回数を増やし、全員の運動量を増加させる。そして、習得した個人的技能や集団的技能をゲームで実践させる。ここでは、グループごとに話し合いをさせ、作戦を考えさせてゲームで実践させ楽しませたい。最後に、本単元の活動を振り返り、まとめとする。

3 小中連携の視点から

本学習指導では、小学生・中学生各1クラスの合同授業を実施する。合同授業では、中学生と小学生が一緒に活動することで、交流を深めるとともに、中学生が小学生に声をかけたり、教えたりすることで、相互のよさを認める態度を育てたい。

4 目標

- バasketボールの特性に関心を持ち，楽しさや喜びを味わうことのできる態度を養う。
- チームや自己の能力に応じた課題の解決を目指し，練習の仕方やルールを工夫することができるようにする。
- 個人的技能や集団的技能をいかし，ゲームをすることができる。
- Basketballの特性やルール，審判法などを説明することができる。

5 単元の指導計画（12時間）

配時	学習活動・内容	留意点	観点：評価規準 《評価の方法》
1	1 オリエンテーションをする。 (1) Basketballの特性やルールの理解 (2) グループ編成，役割分担 (3) 試しのゲーム	○ 他の球技と比較したり，ビデオを視聴させたりして，Basketballの特性を明確に理解させる。 ○ 個人的な技能の高い生徒が，一つのグループに集まらないようにする。	関：特性やルールに関心を持ち，学習に取り組むことができる。 <様相チェック>
3	2 個人的技能を習得する。 (1) フットワーク (2) ボールハンドリング (3) シュート (4) パス (5) ドリブル	○ 様々な鬼ごっこを通して，Basketballに必要とされるフットワークを習得させる。 ○ グループごとに練習を行わせ，教えあいながら練習をさせる。 ○ つまずきのある生徒に対しては個別に指導する。	技：個人的技能を習得している。 <活動内容チェック> 思：個人の能力を把握し，能力に応じた練習方法を工夫する。 <様相チェック>
本時6/12	3 集団的技能を習得しゲームを楽しむ。 (1) パスワークを高めるゲーム	○ 鬼ごっこの要素を含んだゲームを行うことで，小学生にも楽しみながら活動できるようにする。	思：グループで協力して楽しさや喜びを味わおうとする。 <発言・様相チェック>
	7 (2) 3対2の攻防練習 (3) 3対3の攻防練習	○ 防御者が一人少ない状況の攻防練習をさせることで，空いている味方を見つける能力を身につけさせる。 ○ 戦術ボードを使用させながら，グループごとに話し合わせ，作戦を考えさせる。 ○ グループの課題解決に向けて，成功したプレイや戦術を振り返らせ，グループごとに作戦を考えさせる。 ○ ゲームの進行に必要な審判・得点・計時の役割を責任を持って行わせる。	関：集団的技能を習得している。 <活動内容チェック> 技：個人的技能・集団的技能をゲームにおいて発揮することができる。 <活動内容チェック>
1	4 活動を振り返り，まとめをする	○ グループごとに話し合わせながら，今までの活動を振り返らせ，感想文を書かせる。	知：特性やルールを説明することができる。 <プリント分析>

6 本時（6 / 12時間）

(1) 本時の指導観

前時までには生徒たちは、個人的技能を習得するための練習を行ってきた。その中で、パスやシュート、ドリブルなどの技術を十分に習得していない生徒もいるが、グループごとに協力して、声をかけあい、教えあいながら積極的に練習に取り組む姿が見られた。

そこで本時では、生徒の練習に対する積極的な姿をさらに伸ばすために、中学生が小学生に対し励ましの声をかけたり、教えたりする場を数多く設定し、協力しながら、楽しんで簡単なパスワークのゲームを行うことをねらいとしている。そのためにまず、学習のめあてを確認させる。次に、ウォーミングアップを行う。その際、小学生と中学生が二人組を組んで協力しながら、ボールを使った補強運動を行う。ここでは、中学生にアドバイスや声かけを積極的にさせることによって、楽しく活動ができるようにする。さらに、グループごとに分かれてバケツをゴールに見立てたパスゲーム（バケツットボール）を行わせる。ここでは、中学生と小学生を同じグループにすることによって、お互いに話し合っって作戦を考えさせる。また、上手く話し合いができていないグループには助言して、活動がスムーズに行くようにする。最後に、小中混合のグループごとに本時のまとめを行い、お互いに認め合う場を設定する。

(2) 主眼

○小学生と協力しながら、簡単なパスワークのゲームを楽しむことができる。

(3) 準備

- ①ボール30個 ②ボールかご2個 ③ゼッケン赤・青・黄×6 ④デジタイマー1個
- ④バケツ3個 ⑤めあてカード ⑥ルール一覧表

(4) 過程

学習活動・内容	準備	○手だてや留意点 ◆〔観点〕評価（評価方法）	形態	配時 (分)
1 学習の準備とめあての確認をする。 小学生と協力しながら、バケツットボールを楽しもう		○本時のねらいを明確にすることで、学習内容に対する意識化を図らせる。	一 斉	5
2 ウォーミングアップを行う。 ・ ひざタッチ鬼 ・ バスケットボール体操 ①体前後屈伸 ②体捻転 ③一直線 ④足上げ腹筋パス ⑤背筋パス ⑥野球パス	①②	○中学生と小学生を二人一組にして行う。 ○数を数えたり、声かけを積極的にさせる。 ○声かけがうまくいっていない児童生徒には助言を与える。(T2)	一 斉	15
3 バケツットボールを行う。 ・ ルール 1グループ（6人） ドリブルなし 時間は40秒 攻撃側はバケツにボールを入れたら2点 防御側はボールを取ったら1点	③④ ⑤⑥	○パスが上手く行かないグループや作戦が話し合えていないグループには個別指導する。(T2) ◆〔思〕アドバイスをし合い、グループで協力して楽しさを味わおうとする。 (様相チェック) ○試合の間に、グループごとに作戦を考えさせ、次の対戦の準備をさせる。	グ ル ー プ	25
4 本時のまとめ ・ 小中混合のグループで、本時を振り返る。 ・ 各グループのまとめを発表する。		○小学生と中学生が積極的に意見交換できるよう支援する。	一 斉	5